

自己評価報告書(最終報告)

報告者

臨床心理士養成コース
／葛西 真記子

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ. 学長の定める重点目標

Ⅰ－1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれている必要がある。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

1. 目標・計画

学部の授業は、表現コミュニケーションを担当しているので、教員になるために必要な、表現力と来、ユニケーション力を育成することを明確な目標として設定し、学生が自己表現できるよう、他者と円滑なコミュニケーションができるような演習を行う。

また、ゼミにおいては、教員として必要な能力・技術が身につくような内容の卒論指導を心掛ける。例えば、子どもたちの前でのアサーティブな自己表現、クラスに不登校の学生がいた場合の接し方、適応指導教室での関わり方などである。

2. 点検・評価

学部の「表現コミュニケーション」の授業において、教員にとって必要な表現力とコミュニケーション力を育成することを目標に、小グループでのディスカッション、自己表現を積極的に行った。

学部のゼミにおいては、教員の実践力として必要なアサーショントレーニングのプログラムを構成・実践し、その結果を卒業論文にまとめた。また不登校生への適切な支援の仕方について、適応児童教室において実践した内容を卒業論文にまとめた。両名とも教員として必要な実践力が身に付いた。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

授業に関しては、特に学部において、受動的に学ぶ姿勢の学生が増加していると感じているので、積極的に授業参加できるように、課題をだし、発表をすることをやる。大学院では、引き続き、小集団、個人での指導を中心にを行い、講義形式のものには、学校現場に即した実践例を多く紹介していく。

また、ピア・カウンセリングの広報活動につとめ、学生の精神的健康を支援も引き続き行う。

2. 点検・評価

ゼミの学部生の教育実習、教員採用試験の面接対策など不安点やその解決方法について一緒に考えた。その結果、二人とも県内の小学校教諭として勤務することが決まった。
ピアカウンセリングに関しては、申込のあった学部生・大学院生に対して、臨床心理士養成コースの院生によるカウンセリングを行った。それぞれの学生の心のケアを実践することができた。

Ⅱ－2. 研究

1. 目標・計画

今年度は、カウンセリングの過程そのものについての研究を行い、より効果的なカウンセリングがどのようなものかを明らかにする。

セクシュアル・マイノリティに関する研究は引き続き行い、大学構内をLGBT肯定的な環境になるように、研究を実践を行う。

予防教育に関する研究も、教師の精神的健康、教師としての自己効力感の向上をはかるために必要な要因について研究を行う。

2. 点検・評価

これまでの研究成果が認められ、学内のベストティーチャー(研究部門)に選ばれた。
文部科学省研究費のセクシュアルマイノリティの地域援助に関する研究は、月1回の運営委員会、年2回程度の地域のセクシュアルマイノリティの方々との交流会を実施した。

同様に、文部科学省研究費のカウンセリングの家庭と効果的な養成に関する研究は、大学院生による模擬カウンセリングの逐語録を作成し、他大学(中央大学、文教大学)の大学院生との比較を行っている。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

予防教育科学センターの兼任教員として、大学の中期目標である予防教育のさらなる実践を目指して、県内、県外の小・中・高との連携をはかる。

院生定員は、今年度達したので、来年度も引き続き、積極的に学外のカウンセリングセンターに入試の情報等を提供する。また、修了生の就職率、就職先も入学希望者に影響があると思われるので、積極的に就職支援を行う。

2. 点検・評価

予防教育の推進を目指し、県内の小・中・高にて講演を依頼されたときには、本学での実践の紹介を行った。

院生の定員確保のために学外のカウンセリングセンターにて、入試の情報を提供した。

修了生からの就職の情報をできるだけ、就職活動中の院生に提供し、就職希望者は、ほとんどが就職した。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

社会との連携に関しては、スクールカウンセラーとして徳島県内の小中学校に派遣されており、そこで、予防教育や心理教育プログラムの実践、不登校やいじめへの対応を引き続き積極的に行う。社会における青少年の健全育成のための委員会等に参加し、臨床心理学的な専門をいかす。その他、各種地域の家庭教育支援や人権教育に関する委員を行っているので、その中で地域への貢献をおこなう。

2. 点検・評価

徳島県の不登校対策検討委員会のプロジェクトリーダーとして、不登校の未然防止、早期解決のためのリーフレットを作成した。

県内のスクールカウンセラーとして小学生・中学生の不登校・不適應に対応した。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)